

「高校生最大の文化の祭典」で松高生が登場!

7月29日～8月1日、滋賀県で開催された第39回全国高等学校総合文化祭（書道部門）に滝川瑠奈さん（松前高校書道部3年）が出場しました。

これは、昨年10月に小樽市で開催された北海道高等学校文化連盟第48回全道高等学校書道展・研究大会において、滝川さんが出展した書が評価され、全国大会に登場する北海道代表17名として出場したものでした。

なお、滝川さんは、10月7日～9日、稚内市で行われる第49回全道高等学校書道展・研究大会において、全国大会についての発表を行っています。

北海道代表として活躍した滝川さんに活動報告をしていただいたので紹介します。



全国大会に出場した17名の北海道代表

私は、滋賀県で開催された第39回全国高等学校総合文化祭（書道部門）に参加しました。

全国大会に出場できることにとても喜びを感じました。

しかし、大会が近づくにつれてわくわくしていながらも、緊張と不安でいっぱいでした。

私たちは、全国大会への出場には、17名の北海道代表として出場したものでした。私は、全国大会への出場には、17名の北海道代表として出場したものでした。

仲々した線で自然な流れのある行書、潤渴があり筆の開きを上手く使っている創作、力強く緊張感のある楷書の三点を選びました。普段見るのない書体や、創作作品を見て表現の素晴らしさや、工夫が見られる筆遣いの作品を選びました。どれも魅力があり目を引く作品ばかりで見て歩くだけでもとても良い経験になりました。

作品会場では、自分の作品とは雰囲気の全く違う作品ばかりでとても刺激を受けました。北海道代表の展示室を見に行き、そこに私

参加と共に、10月、稚内市で行われる全道大会での報告に向け、代表者17名がそれぞれ役割を分担しました。

私は、全国展の中から自分が良いと思った作品を選び、紹介する仕事を任せられました。

伸々した線で自然な流れのある行書、潤渴があり筆の開きを上手く使っている創作、力強く緊張感のある楷書の三点を選びました。普段見るのない書体や、

創作作品を見て表現の素晴らしさや、工夫が見られる筆遣いの作品を選びました。どれも魅力があり目を引く作品ばかりで見て歩くだけでもとても良い経験になりました。

の作品も飾られていることにとても感動しました。

一日目の交流会では、他

県の生徒達と交流し筆伝大会と色紙寄せ書きの交換をしました。

筆伝大会とは他府県の13人とチームを作り、一つの漢字を一画ずつリレー形式で書く企画です。

私のチームは、「凜」という字を書き、なんと優勝し、筆をいただきました。とても良いチームワークで書く企画です。

全国大会に出場できたことを誇りに持ち、たくさん応援し支えてくれた仲間達のおかげだと思っています。

全国大会に出場できたことを誇りに持ち、たくさん応援し支えてくれた仲間達のおかげだと思っています。

みんなで集まつての会話は、尼崎のことがないほどとても良い交流ができました。

最後に、このような体験ができたことは、松前町をはじめ顧問の先生や家族、応援し支えてくれた仲間達

みんなと楽しく食事したことや、修学旅行のようにみんなで集まつての会話は、尼崎のことがないほどとても良い交流ができました。



全国大会に出展したのは、中国唐時代の書家・顏真卿が書いた「祭姪文稿」という古典を臨書したものです。

松前高校書道部3年
滝川 瑠奈